

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大 学 名	法政大学
整 理 番 号	B17
構 想 名	課題解決先進国日本からサステイナブル社会を構想するグローバル大学の創成

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) <p>本構想は「サステイナブル社会」の実現に貢献するグローバル大学の創成を目指し、教育、研究、高大連携、社会人教育、体制構築の5つの目的をテーマに、設定した目標を全学的かつ包括的に推進する取組である。</p> <p>「世界のどこでも生き抜く力を備えるフロンタナー育成」においては、英語強化プログラム、外国語交流ラウンジ、国際ボランティア・インターンシップの実施に加え、グローバル・オープン科目群の全学展開、派遣留学制度等により、外国語力基準を満たす学生数の増加等の成果を挙げている。また、全学共通の「課題解決型フィールドワーク」においては、複数学部合同ゼミ、千代田区キャンパスコンソーシアム、他大学間協働、海外大学や企業における交流が精力的に展開されている。</p> <p>ガバナンスに関して、グローバル戦略本部によるコミットメントの形成により、あらゆる学部・研究科がすべてのプログラムに参画し、自分事として推進している認識をもっている点は評価できる。教育プログラムを全学的に展開し5つの目標の達成に向かって体制整備を行い、必要時に弾力的な変更を行っている点は、大規模な総合大学の特性を活かした事業展開として評価できる。</p> <p>数値目標未達成の状況に関しては、すでに具体的な方策が立てられている。特に多くの外国人留学生の志願者がいるにもかかわらず、10%未満の入学者であることへの対策は、日本語合格基準の変更、留学生入学定員増が認められ、成果への反映が期待される。大学独自の指標である「学部生のグローバル・アクティビティ体験率100%」という目標は、大規模大学における本事業成果として達成が大いに期待され、先進的モデルとなることを期待したい。</p> <p>一方で、目標値に届いていない指標のうち日本人学生に占める留学経験者の割合が平成30年度以降、増加が認められず、改善策を早急に取り組むことが求められる。</p> <p>資金計画については、国からの財政支援期間終了後の事業の継続を見据えて、事業内容に合わせ、大学自らの財源確保に積極的に取り組む必要がある。</p> <p>我が国社会のグローバル化を牽引し、「世界のどこでも生き抜く力を備えたフロンタナーの育成」を主軸におき、「サステイナブル社会」を構築する人材育成の教育システムの先駆的モデルとして、現在のプログラムを着実に進展することを期待する。</p>	